

86/BRZ Race 2019

Round5 富士スピードウェイ

2019.7.6-7



2019 Summer
Fuji Speedway
86/BRZ Race Rd.5

一六RACING Report
Vol.3

7.4 (Thu)

練習走行



4月のRd.2富士以来となる富士スピードウェイ。
前回と違うのは天候。梅雨の影響でサーキットは大雨、テント内の設営をするのも大変な中、限られたスペースで工具や道具を濡らさないようみんなで知恵を振り絞りながら準備を進めていく。この日は午前中の走行枠が走行中止となり待機状態が続いた。午後から降り続いた雨がようやく落ち着き、やっと走行がスタート。濡れた路面コンディションの中、前回の感覚を取り戻しつつ、ウェット特有のクルマの挙動や走行ラインのアドバイスを受けながらクルマを走らせる。きちんと練習ができるのはこの日だけのため、ドライバー・メカニックそれぞれが各々の役割を全うしていた。

7.5 (Fri) 占有走行



この日も天候は不安定。降ったり止んだりを繰り返しながら、乾いた路面と濡れた路面が入り混じる路面コンディション。
この日の走行は30分しかなく、さらに出したタイムを全チームが確認できる。翌日の予選で自分がどのくらいの位置につけるか分かるため、非常に大事な30分。
ドライバーはもちろんだが、エンジニアもタイムを出すために、タイヤの空気圧の設定や各種油脂類の交換作業などコンマ1秒でも「速く・安全に」走るクルマを仕上げるために余念がない。その結果、※同組(クラス2組)の中3番手と高順位につける。
走行後、翌日の車検に向けてマシンを整備。メカニックにとっては緊張の瞬間が待ち受ける。※クラブマンオープンクラスは台数が多いため、1組2組に分けられています。

7.6 (Sat)

～車検

この日は車検の受付時間の兼ね合いで朝が早く、ゲートオープンの6時にはサーキットに到着。しかし、入場ゲートの前にはすでにたくさんのクルマが入場を今か今かと待っていた。その光景に改めてモータースポーツは朝が早いことを実感する。



予選前に行われる車検に向けて準備をしていると隣のテントにトラブル発生。連日の雨によりテントの幕に水が溜まり、溜まった水の重さに耐えきれずテントの脚が折れてしまう。幸いにもケガ人は出ず、マシンも軽微な傷のみで済んだため大事には至らなかった。自分たちのテントは問題なかったが、周りのテントを見渡すと同じように水が溜まり今にも崩れそうなテントがいくつか。周りのチームはまだ現地入りしていなかったため、一六RACINGメンバー全員でこの事態に対応した。そして車検へ。マシンのパフォーマンスを最大限に引き出すよう、車高は車検に通るギリギリに設定しているため、メカニックにとっては緊張の瞬間だが、問題なく通過した。

7.6 (Sat)

Best Time更新!!

～予選

Time 2' 08.535



予選に向けて、走行ラインの確認やタイヤの内圧をどのくらいに設定するか作戦会議。これまで走行した路面状況や内圧の変化量など、2日間で得た情報を全て駆使し、設定していく。「15分間」という限られた時間内にベストタイムを出すべく、メンバーみんな真剣に話し合う。そして、いよいよ予選。今回併催している他のレース車両の状況を確認し、内圧の設定をドライに合わせてアタック開始。これが功を奏し、予選2組中8番手に付ける。同時にレースウィーク中のベストタイムも更新した。

7.7 (Sun)

決勝



いよいよ決勝レース当日。会場の雰囲気もどことなくピリピリとした緊張感が満ちる。

スターティンググリッドに並ぶのは全45台、前日の予選の結果により15番グリッドからのスタートとなった。

決勝レースは10ラップのスプリントレースのため、ガソリン量・タイヤが熱で垂れず走りきれぬ内圧の最終確認をし、各マシンがグリッドへ着き始める。

ドライバー曰く、この辺りで緊張感は最高潮。心拍数も急上昇のよう。フォーメーションラップを終え、「10ラップ」という短いようで長いレースがスタート。スタートダッシュを決め1コーナー進入までに2台をパッシング、その後Aコーナーで更に1台をパッシングし、この時点で12番手。

設定していた内圧がバッチリ合い、オープニングラップから高いグリップを発揮し、良いポジションで前方車両の動きを伺う。

と思った矢先、ダンロップコーナー入り口で後続車両と接触し走行不能でリタイアとなった。スタートから約2分の出来事だった。

令和になってから初の86/BRZレース参戦ということで、今回からマシンもレーシングスーツもNewデザインで挑みました！

今回の富士はエントリー台数も多く、駐車場まで各チームのテントで溢れ、現場は非常に盛り上がりを見せていました。

予選は非常に良いタイムで決勝グリッドも15番手と、初戦の鈴鹿以来の入賞を目指して高村選手は良い走りを見せてくれました！

途中、12番手まで順位を上げていて脇阪さんも高村の良い走りを絶賛する中、スタートから1分30秒後の悲劇…突然のクラッシュによるスピン。。

脇阪さんと一緒に直ぐにダンロップコーナーまで行きましたが、一六レーシングの車はなく、ぶつかった相手車両のみが止まっている状態でした。

今回の結果は非常に残念ではありましたが、当社の強みである5ブランドからメカニクが参加し、良いPRにもなったと思いますし、脇阪さんやアドバイザーの江成さんも当社のメンバーはいつも誰が来ても自分たちで考えながら作業をしているし、愉しそうにやっているから素晴らしいと言ってくれます！

次の参戦は10月19-20日の岡山国際サーキットでの最終戦のみとなりました。

今シーズンラストは当社の社員やお客様を沢山連れて行き、高村選手応援ツアーなんかもできればいいですね！最後は表彰台で笑顔が見たいです！！

チーム代表 玉置 竜



一六Racing チームアドバイザー 川端 伸太朗

今大会は前戦と同様の富士スピードウェイでの開催となりましたが、2ヶ月半ものインターバル間、練習する事が出来なかった為、ドライバーの心境ではぶっつけ本番となった事でしょう。

初日の練習では前回の走り方を思い出す事から始まりましたが、周りのライバルも成長して来ているので、高村選手は追い抜かれるばかりで歯がゆかったと思いますが、しっかり毎セッションレベルアップをして占有走行では3番手タイムを叩き出す飛躍っぷりにはアドバイザーの私も興奮させられました。激戦の予選でもしっかりと練習の成果を出して上出来だったと思いますが、決勝では後続車に追突されリタイア。自分もこのような経験は何度もありますが、ドライバーに怪我が無かったのは幸いの事。またこのような経験がチームを強くしていく糧となる事は間違いないと思います。

西山エンジニアも毎戦成長して頼もしく、新たに加わった3名のエンジニアはテント村での整備の難しさを体感しつつも熱心にメンテナンスをこなしていました。

次戦は愛媛県から1番近い岡山戦。

ドライバーのレベル的にも、しっかり練習して挑めば表彰台も夢じゃないかも？と思ったりしています。日々成長する一六レーシングの応援、今後共よろしくお願い致します。

ドライバー

GR Garage 松山 高村 浩平



前回の富士戦から約3カ月。レース車両を運転するのも前回のレース以来という状況で、今回のレースに臨みました。

初日の走行は前回できていたことができない歯がゆさを感じながらの走行、なかなか思い通りに走れず、改めて富士スピードウェイの難しさを実感しました。レースウィーク中、雨が降ったり止んだりと不安定な天候が続き、路面のコンディションも周回する毎に変わる状況の中を走らせるのは難しかったですし怖かったです。そんな中でも、川端さんの的確なアドバイスのおかげでタイムも上がり、86を運転する感覚が戻ってきていたので、予選・決勝とすごく良い状態で臨むことができました。

また、レースウィーク中ずっと雨の中クルマを仕上げてくれたメカニックのみなさんの為にも、少しでも良い順位で終われるよう精一杯走ったつもりです。それだけに、走り切れずリタイヤとなってしまったことが非常に悔しかったです。この気持ちを次戦の最終戦岡山にぶつけたいと思います。

メカニック

Audi松山インター 一色 孝範

プラクティス、予選、決勝と4日間通して感じたことは、「もっとプロになりたい。プロを追求していけば、自ずと伝えていくことができるはず。」と痛感しました。

一番印象に残った出来事として、決勝レース序盤の接触により一同動揺を隠せない中、脇阪寿一さんが車の状況を見るなり「あれは当てられとる。こっちは悪ない。」と冷静に状況を把握し落ち着かせていただきました。プロが培った経験から自然と出てきた言葉、素人には到底断言できる状況ではありませんでした。

経験をしたことがあるからこそ分かること、その分かったことを状況や立場に合わせて伝えることができ、理解してもらってこそ「プロフェッショナル」だと感じました。

我々メカニックが直している物は自動車です。その自動車を使っているのはお客様である人です。その身近な人が理解納得して頂けるよう今回のような経験も吸収し、お客様がイメージするような「整備のプロ」に近づけるよう邁進していきたいと思いました。



チーフメカニック

GR Garage 松山 西山 大智



予報通り、レースウィークすべてが雨に悩まされる一週間になりました。

降ったり、やんだり。路面が乾いたり、濡れたり。タイヤ内圧の調整もぎりぎりまで迷ってばかりで、天候はどっちつかずと環境としては非常に悪かったですが、とても勉強になったと思います。天候に振り回され、練習走行でのタイヤ内圧の調整がうまくいかず、コースインして2周で戻ってきた高村君に『アンダー（ステア）で曲がらないのに、そのあとオーバー（ステア）がひどくて走れない！グリップしない！』と言われることもあり、車載動画を確認しても、タイヤ内圧の少しの違いでこれほどに車の動きが不安定になるのだと実感する事がありました。

整備エリアでも工具や部品が濡れないように配置する。車の窓の内側が曇らないように水気を車内に持ち込まない。油脂がこぼれないように作業する。気を付けることがたくさんあります。オイルもほんの一滴こぼれるだけで、整備場所は傾斜があるため雨の流れにのってほかのチームのところに流れて行き迷惑をかけることもあります。来た時よりも美しく！会場を汚さないためにも必要ですし、雨同様ドライバーのシューズの裏についてしまうとハードブレーキング時に滑ったりと、一瞬が命取りになるようなことも起こりえるので非常に気を使いました。

また、作業の話ではないのですが、良いこともあり他チームの方からお褒めの言葉をいただいた出来事があります。他チームより早くサーキットに到着していた当社チームは雨の重みにより他チームのテントが崩れてしまう場面に遭遇しました。参加した各店舗のメカニックの人たちは、様々なチームのテントを確認し、対策をしたほうが良いと思われるテントにたまった水を排水したりと、臨機応変に対応することができました。

サーキットで過ごした4日間を通して、「メカニックの動きがすごくいいね」とお褒めいただきました。

決勝では、残念ながらタイヤとなりました。クラッシュ直後は高村君も少しふらついており心配しましたが無事なようなので、最終戦岡山に向けてまた車両と環境を整えていきたいと思っています。



レクサス松山インター 渡部 翔太

今回レースに参加して、色々なことを学ばせて頂きました。
特にレースとディーラーの仕事ではやっていることは似ていることなのですが、作業要領等は全く異なることというのが身に染みて分かりました。
レースの世界ではいかに早く安全に作業するということが大事で、ディーラーではいかに正確且つ的確に作業できるかというのが大事ということが分かりました。
今回学んだことを仕事に活かしていけるよう工夫しながら日々の業務に努めようと思います。



J.Spot空港通 橋田 直樹

第1戦の鈴鹿に次いで第5戦富士もメカニックとして参加させて頂きました。
2回目ということもあり、どんな作業をするか分かっていたのですが、前回と違い雨が降っていた為、テント内での作業や工具の整理整頓など雨に濡れないようにするのも大変でした。
結果としてクラッシュによるリタイアでしたが、もし、予選でクラッシュした場合に決勝で走らせるにはどこをどのように直したらいいのかを考えることができ、良い経験ができました。次戦の岡山も参加予定ですので積極的に行動できるよう頑張りたいと思います。



Volkswagen松山インター

橋本 聖矢

メカニック

MECHANIC

今回、VW松山インターのメカニック代表として参加させて頂き、普段行っている業務の中では味わえない責任感や緊張感というものを多く感じることが出来ました。

一般道を走っている車両とは比べ物にならないほど過酷な環境を走行している為、油脂類やブレーキ周りの交換および点検作業などちょっとした部分でも不具合があると、まともに走行できなくなる。車を運転しているドライバーはもちろんのこと、車両をメンテナンスしているメカニックも含め、全員で力を合わせないと目標である完走を達成できない為、チームワークも非常に大切な事だと感じました。それは普段の業務にも言えることで、店舗が掲げる様々な目標には、全員で協力し合い立ち向かっていかなければ達成は困難かと思います。改めて店舗内でのチームワークを大切にしていこうと思いました。

今回のレース結果は、追突されたことで車が破損し走行不能になった為、残念ながらリタイヤとなってしまいましたが、ドライバーに大きな怪我が無かったことが不幸中の幸いだったと思います。

レース終了後のミーティングの中で、脇阪選手が事故を起こさないためにドライバーのテクニックはもちろん大切ですが「何よりも事故を起こさない車が大切」とおっしゃっていました。“事故を起こさない車とは不具合が無いこと”は勿論のこと、ドライバーが障害物を避けようとしてハンドルを切ったり、ブレーキを踏んだ時に滑らないできちんとコントロールできる“ドライバーの思った通りに動く車”というものを、メカニックである私たちが維持していかなければいけないということを学びました。

今回の貴重な体験を日々の業務に反映し、お客様の安全を第一に責任をもって取り組んでいきたいと思いました。また同じような機会があればレースに参加したいと思います。

N-ReBORN推進室

五嶋 一郎

庶務係

SUPPORT

前はサイボウズの掲示板での大会レポートでしたが、社員でも見れない方がいらっしゃったり、一般のお客様にもお伝えしたいという事もあり、GRガレージのブログを使ってのレポート配信を行いました。

前回同様、裏方で動いてくれてるスタッフの行動や、表に出て来ない綿密で地味な準備作業・高村ドライバーと川端選手との走行前後のやりとりなど、現場でないと分からない事を中心にお伝えしたつもりですが、いかがだったでしょうか？

今後も見て下さる皆さんが、一緒に予選を乗り越えて、一緒に決勝レースを迎えられる気持ちになれる様な伝え方をしたいと思います。

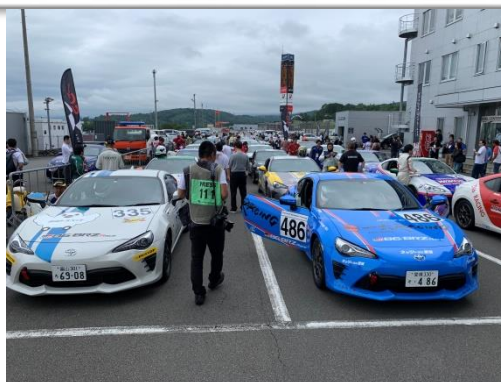
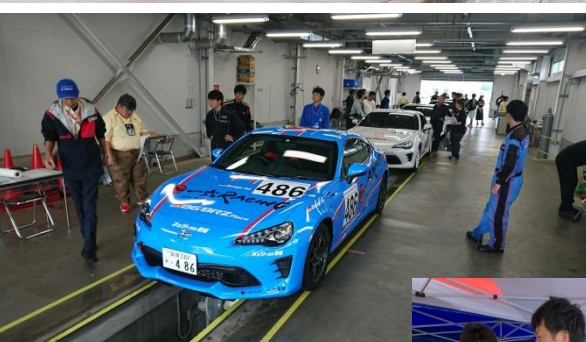


GALLERY



GALLERY





GALLERY



GALLERY



NEXT BATTLE_

10.19-20 86/BRZ Race Rd.5

Okayama International Circuit

